

北海之光

3月号 北海道教区報

祝福されよ 主に信頼する人は

エレミヤ書 17章 7節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「ザ・ご復活のイコン」

聖マーガレット教会牧師
岩見沢聖十字教会管理牧師
司祭 ヨハネ 池田 亨

ギリシャ正教の流れをくむ諸教会はイコン(聖画)を重んじます。イコンを描くとき、イコンのテーマごとに、それぞれ決まりごとがあります。構図、色、形等諸々。イコンは、修道者によって一筆一筆、祈りつつ、ここを込めて描かれます。そして、祝別をもって完成します。いわば描かれた「み言(ロゴス)」なのです。天国に開かれた窓とも言われます。

アナスタシスと名づけられるイコンがあります。アナスタシスとはギリシャ語で直訳すれば「立ち上がること」。神学用語では「復活」を意味します。イコンの上部中央にはお決まりで冠詞付で「ヘー・アナスタシス」と記されます。すなわち「ザ・ご復活」のイコンです。

復活と名づけられたそのイコン。当然、福音書の復活伝承に従って、弟子たちに復活のみ姿を現されたキリストの画像が題材と、誰しも思うでしょう。ところが、アナスタシスのイコンはキリストの陰府(よみ)への降下が題材となっているのです。それは聖書の根柢が希薄なものです。古代教会が大切にしていた信仰なのです。そこに込められた神学的事柄が重要です。それに教会暦に即するから聖土曜日。使徒信經の「死んで葬られ、よみに降り、」の場面にあたるのですから。その画像、どのようなものなのでしょう。陰府に降下されたイエス・キリストが中央に立ち、死の世界の暗闇で眠っていたアダムとエバの棺の蓋を蹴り開け、死の眠りから目覚めさせ、アダムとエバの手首をむんずと掴んで天に向って上へ上へと引き上げていく。そのような力強いキリストのみ姿が描かれています。

なぜ、このイコンがアナスタシスなのでしょう。そこに復活における救済の信仰が込められているからです。陰府は神の光が及ばない閉ざされた暗闇。救いの外にある死が支配する領域です。しかし、その領域にキリストは十字架の死を通して下り降り、死に閉じ込められていた者に救いの御手をさしのべられる。人類の祖、原罪を負うアダムとエバの手首を掴んで上へ上へと引き上げるキリストこそ、死の只中で、復活のみ姿を現されたお方なのだと言わんばかりに。

ここで思い浮ぶ詩編の御言葉があるかと思えます。陰府に身を横たえようとも見よ、あなたはそこにいます。あなたはそのにもいまして、御手をもってわたしを導き、右の御手をもってわたしをとらえてくださる。

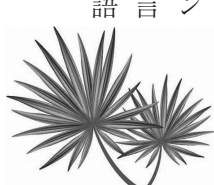
アナスタシスのイコンは、キリストによる陰府における宣教、「死からのちへの過ぎ越し」の意味を示します。それは全人類への救いの普遍性をも意味しましょう。

キリストによってしっかりとその手首を掴まれたアダムとエバ。それは、このわたしでもあり、そしてあなたでもあります。なお、わたしにとって慰めなのは、キリスト教信仰を得ずして亡くなった肉親、親友への救い、希望をも意味するものだからです。

アナスタシスのイコンは救いの外の領域が無くなったことをも意味するのではないのでしょうか。陰府に横たわる死者、すなわち死と滅びに決定づけられた者が、いのちへと招き入れられるのですから。低きに降るキリストの一方的な恵みによって。

死からのちへ、闇から光へ、絶望から希望へ。ザ・ご復活のイコンは、声なき言葉で福音を語ります。

(詩編一二九より)



—心の窓をひらけ—

福音と私(二四六)

—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—



深川聖三 教会信徒

イサク 岡本俊秀



私の好きな聖句

「苦難は忍耐を 忍耐は練達を 練達は希望を生む」

ローマの信徒への手紙

五章三節・四節

今回、「福音と私」の原稿を教会の方々より依頼を受け、さて困ったなと考えた。「岡本さんは代々クリスチャンなんだから大丈夫」と背中を押され書くことになる。

自分と教会(牧師さんかな?)とのつながりは子ども



なる。そこで多くの先輩達に

会うが、クリスチャンとはこういう人達を言うのかと、その時はその真面目さや熱心さに感心したものである。(クリスチャンの家庭として自分の家が不真面目という訳ではないが)そう言えば、父の遺品を整理しているとき見つけた自分史を思い出す。父も若いときはそれほど深い信仰を持っていた訳ではなさそう

だ。職に就いてから、師と仰ぐ先輩に尻をたたかれしおぶ教会に通ったとある。その先輩がよく口にしていた言葉が冒頭の聖書のことばである。良き人たちに恵まれたと最後のくだりだった。

下宿で仲の良かった同室の友は立正佼成会に所属しておりよく勤行をあげていた。大学で知り合った先輩は創価学会員でこちらにも色々な活動に連れて行かれたものである。親が知ったらびつくりするだろうなと思いつつ信仰に関して頭の中はごった煮の状態であった。

その後、千葉県で中学校の教員となり、これまた部活漬けの毎日。土日の部活の疲れを月曜から金曜日の生活でなんとか減らしていく状態であり、教会に行こうとは考えもしなかった。定年までは何年か残したところで病弱な母が一人になり、その面倒を見るため四〇年ぶりに故郷で暮らすことになった。家族とは離れて暮らすことになるので、まあ三年たつたらどうするか考えるからと妻に話してこちらへ帰ってきた。しばらくはのんびりしようかなどと考えていた。帰ってきてから教会に顔を出したことがきっかけでまた、子ども達(中学生に比べれば随分小さいが)との生活が始まった。深川あけぼの保育園である。今までと違うのは日々の生活に祈りがあること。

自分は熱心なクリスチャンでもないのだがいいのかなと自問する毎日である。

今振り返ってみると、色々なときに神様に祈り願っていたような気がする。教員になった当時は全国で校内暴力

の嵐が吹き荒れ始めた頃である。最初に勤めた学校も一年五百人以上のマンモス校。あつという間に大荒れの毎日。いわゆる「生徒指導」の毎日であった。その学校にも一〇年近く勤務することができたのは精神的に強かったわけではないが、自分に与えられた場所という気持ちがあったと思う。それは今も変わらない。なぜかこの意識は幼い頃から心の中に居着いているような気がする。深川に帰ってきて七年間、多くの人からそれが感じられるのが心地よい。

今回、原稿を書くにあたって自分の先祖についてはあまり詳しくはないことに気づき、あわてて深川聖三教会にある過去の信徒名簿を見返した。名簿には、学生時代から教員時代にかけて一緒に暮らした祖母の名もあり懐かしく感じた。「わが心 たたえよ主を いのちの主 聖なるみ名」

最近なぜかよく口ずさんでいる自分である。

常置委員会報告
 第四回 二月一五日

《協議事項》

一、信徒奉事者推挙の件
 ・教会より提出された推薦者を承認した。

二、コロナ感染の件
 ・二月に引き続き三月も対策を継続する事とした。

三、ホレンコ幹事選出の件
 ・候補者三人を推薦した。

四、教役者人事に関する件
 ・人事異動に伴う費用支出に

ついて承認した。

五、聖公会神学院への感謝の件
 ・三月一日神学院卒業礼拝に際し、聖公会神学院に対して謝意を表すこととした。

六、宣教協働区について



主教室より

二月の誕生日で私は六九才となりました。昨年、丁度コロナ禍が急激に広がりました。誕生日を迎え、それから一年、誰もが考えもしなかった世の中になり、教会の諸活動も止めるを得ず、それでも主日礼拝だけは守ることを決断し、最初は聖職だけの礼拝となることもありましたが、聖歌を歌えない礼拝など、誰が想像し得たでしょうか。司祭たちは何度も何度もアルコールで手指を消毒しながら聖餐式を捧げ、細心の注意を払ってパンと葡萄酒の分餐をしました。感染拡大を恐れながらも、それでも主日の聖餐式を守り

たかったのです。あの司祭は、信徒のいない主日の礼拝堂で、

たまたまやってきた初めての方に事情を説明して同席していただき、聖餐式を挙げたこと。独りでは聖餐式は挙げられないのが決まりだからです。

「命」が大切……。勿論のことです。そして同じように霊の命、「魂」の養

いば私たちにとっては欠かせないもの、いや、肉体の命以上かもしれません。感染が拡大していく状況に恐怖を覚えながらも、必死の祈りの中での聖餐式でした。

主教室巡りもなかなか思うようにはできませんでした。教会生活はいろいろな礼拝や活動などから成り立

ついています。そこでの人と人との交わり、集会、泣いたり笑ったり共に過ごすこと、これらがすべて

剥ぎ取られ、それでも共に礼拝を捧げることだけは守りたかったのです。

今も恐怖はあります。その中で、礼拝にいらつしや

れる方々と、心ありながらも礼拝堂にいらつしやれない方々と、聖職たちはこれからも聖餐式を挙げ続けま

す。剥ぎ取られたものの大切さと、守り切らねばならないことの大切さを、この一年間、痛いほど思い知らされました。

来年、七〇才を迎えるとき、手を取りあって、「平和の挨拶」ができるよう願っています。

主教室 ナタナエル 植松 誠

・二月一日に行われた東日本宣教協働区の協議委員会の協議内容について検討すると共に、主教室選挙を含む教区の後々の予定について協議した。

七、北海道クリスチャンセンターへの献金の件

・コロナ禍での困難に直面している北海道クリスチャンセンターを支援するため教区より献金することとした。

八、金融商品解約の件

・教区が保有する金融商品二件を売却することとした。

堅信式受領
おめでとう

旭川聖マルコ教会

イサク 小林 章一

二月一四日

**十 教区逝去教役者
記念聖餐式**

四月一四日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教室聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 ジョン・バチラー

一九四四年四月二日

司祭 宇田 梅太郎

一九五一年四月三日

主 教 上田 一良

一九七二年四月五日

主 教 天城 英明

二〇一〇年四月五日

伝道師 ルイザンデレスバチラー

一九三六年四月六日

司 祭 荒砥 琢哉

一九三一年四月一三日

伝道師 田中 末吉

一九七八年四月一四日

伝道師 芥川 清五郎

一九二七年四月一五日

司 祭 木村 信一

一九七八年四月一五日

司 祭 小貫 安貞

一九七一年四月一六日

伝道師 白田 うめ

一九五八年四月一八日

伝道師 マリー・シエーン・オックスラド

一九二二年四月二〇日

伝道師 辺 泥 五郎

一九五四年四月二三日

司 祭 山田 安間

一九二四年四月二四日

司 祭 小貫 嗣夫

一九八一年四月二五日

伝道師 江賀 寅三

一九六八年四月二八日

伝道師 バチラー 八重子

一九六二年四月二九日

司 祭 篠塚 長治郎

一九五〇年四月三〇日

「シモンの姑」の宣教

聖職候補生 エリサベト 三浦千晴

主のみ名を賛美いたします。

親愛なる北海道教会の皆様、未だ続くコロナ禍の中、お変わりなくお過ごしでしょうか。二〇一八年四月から、東京の聖公会神学院にて学びの時を過ごしてきましたが、三月一日にその学びを終え、北海道に帰ってまいりました。この間、皆様にお祈りいただきお支えいただきましたこと、心により感謝いたします。

北海道以外で生活することは初めてのことでしたので、戸惑うことも多々ありました。幸い日常を過ごす聖公会神学院は、比較的広い庭と大きな木々に囲まれ、東京二三区とは思えない程自然豊かな環境にありました。三年間健康に過ごせたのは、この環境のお



陰だったのかも知れません。でも新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための緊急事態宣言が出されて以来、休日には、不要不急の外出はしないようにと注意喚起する世田谷区の広報車が一日に何度も回り、人の動きを確かめるようにヘリコプターが上空を旋回する、という状況になってしまいました。そんな中、

東京教会の各教会は、会衆参加の礼拝・公禱の休止を余儀なくされました。主日に教会に行くことができず、また人との接触の機会も減り、私の中で生きた言葉が徐々に枯れていく、そんな心持ちでおりました。故郷の皆様はどうなさっておられるだろう。日々の感染者数の推移を報道で見るたびに不安が募りました。

でもその不安は、北海道教会の皆様、また東京教会での主日教会実習でお交わりをいただいた皆様、そして夏期の施設実習でお世話になった皆様から、何通もの励ましのお

便りをいただいたことで拭き

されました。それは一様にコロナ禍での不安を訴えつつも、最後には必ずイエス様への信頼の言葉で結ばれているお便りでした。イエス様への信頼の言葉が語られることは、そこにイエス様が関わってくださっていることに他なりません。イエス様の愛は見えませんが、互いに愛することは具体的な形を持ち、その形で人に愛を伝えることができるのです。そしてそれを表すことにより、相手にもイエス様の愛が伝わっていく。ここにイエス様を中心とした愛の相互性が生まれるのだと気づかされました。

マルコによる福音書一章三〇節、三一節には、熱を出し臥せていたシモンの姑が、イエス様により癒され、やがてイエス様や弟子達をもてなす者へと変えられていく物語が記されています。ほんの短い聖書箇所ではありますが、ここから実に多くの福音を聴くことができます。この癒し物語は、個人の生活の場から

起こります。シモンの姑は、

この家で長年にわたり家族の日々の暮らしを支えていたことでしょうか。彼女の手は、毎日家族の食事を用意した手で、また時に家族の病を癒すため、日夜看病した手でもあります。また人生の中で起きる様々な苦難や悲しみに直面した時、思わず顔を覆ったその手でもあったかもしれませぬ。そんなシモンの姑が病の床にあることを知らされたイエス様は、彼女に近づき、その手を取り、起こしてくださいました。熱が下がった彼女は、一同をもてなします。この箇所は、新共同訳聖書では「彼女は一同をもてなした」となっていますが、聖書協会共同訳では「彼女は一同に仕えた」に変えられています。この言葉には、「食卓で給仕をする」という意味の他に、「奉仕する、仕える」という意味があるからです。イエス様のみ業により回復したシモンの姑は、イエス様に仕えることにより、イエス様の癒しが我が身に現されたことを示し、癒された者の喜びを表します。

彼女の「もてなし」は、イエ

ス様に出会い、変えられた者として、また新たに奉仕者として建てられた者としての証だったのではないのでしょうか。この奉仕を受けたイエス様は力づけられ、宣教を始め、周囲の町や村へと出発されるのです。イエス様はシモンの姑を、人に食事をもてなす手立てを持った宣教のパートナーとして召されたのです。しかしこの重要な宣教の業を行なった女性には、「シモンの姑」という記述だけで名前が記されておりません。聖書には、身をもってイエス様の救いを証する、多くの無名の女性たちの姿が描かれています。また聖書が伝えられてきたこれまでの歴史の中にも、名も無き人々の働きがありました。教会は、そのような人々の働きによって支えられてきました。今も支えられているのです。私はこれから出会う名も無きすべての人々に仕え、イエス様の示される道をとみに歩んで行く者になりたいと願っております。

感謝 北海の光献金(敬称略)

救主降生2021年2月4日

公 示

日本聖公会北海道教区

主教 ナタナエル 植松 誠

下記の人事異動を行います。

司祭 エリザベツ 阿部 恵子 2021年3月31付で、帯広聖公会副牧師の任を解き、4月1日付で同教会牧師に任ずる。

執事 ノ ア 上平 更 2021年3月31日付で、札幌キリスト教会牧師補の任を解き、4月1日付で、札幌聖ミカエル教会牧師補に任ずる。
(新札幌聖ニコラス教会牧師補は継続)

司祭 ペテロ 大町 信也 2021年4月7日付で、室蘭聖マタイ教会協働司祭に任ずる。

司祭 ヘレン 木村 夕子 2021年4月1日付で、道北分区における協働司祭に任ずる。(任期1年)

司祭 クリストファー 永谷 亮 2021年3月31日付で、帯広聖公会管理牧師の任を解き、4月1日付で、道北分区4教会の管理牧師に任ずる。

司祭 ミカエル 広谷 和文 2021年3月31日付で、旭川聖マルコ教会牧師、深川聖三一教会、留萌キリスト教会、稚内聖公会管理牧師、旭川頌栄保育園チャプレン、紋別聖マリヤ教会協働司祭、紋別幼稚園協働チャプレンの任を解き、定年退職とする。4月1日付で、旭川聖マルコ教会囑託司祭、旭川頌栄保育園チャプレン、稚内聖公会協働囑託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 グレゴリー 松井 新世 2021年4月6日付で、釧路聖パウロ教会及び厚岸聖オーガスチン教会牧師、釧路頌栄保育園チャプレンの任を解き、4月7日付で、苫小牧聖ルカ教会牧師、室蘭聖マタイ教会管理牧師、苫小牧聖ルカ幼稚園チャプレンに任ずる。

司祭 サムエル 吉野 暁生 2021年4月6日付で、苫小牧聖ルカ教会牧師、室蘭聖マタイ教会管理牧師、苫小牧聖ルカ幼稚園チャプレンの任を解き、4月7日付で、釧路聖パウロ教会牧師及び厚岸聖オーガスチン教会管理牧師、また釧路頌栄保育園チャプレンに任ずる。

司祭 パウロ 内海 信武 2021年4月1日付で、平取聖公会及び新冠聖フランシス教会での囑託司祭、またバチラー保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 アンデレ 甲斐 博邦 2021年4月1日付で、深川聖三一教会囑託司祭、留萌キリスト教会協働囑託司祭、また、あけぼの保育園チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 ダビデ 藤井 八郎 2021年4月1日付で、函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会での囑託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)

聖職候補生

エリサベト 三浦 千晴 2021年4月1日付で、札幌キリスト教会及び聖マーガレット教会での勤務を命ずる。

以 上

永田 保信(千葉市)



▽岩見沢聖十字教会

今冬の岩見沢は雪の多い日が続くが、二月になっても勢いは衰えず。園も下旬、休園・自主登園が続く。「平成二四年豪雪」に迫る積雪量。

そのような中、園児は毎日元気に活動。外遊び、歩くスキー、そり滑り、卒園式の練習、洗足式と行事は続く。

七日、教会総会。コロナ禍

の為、時間を短縮しての開催。事前に資料を郵送して目を通して頂く。今年度も制約が多く、困難が予想されるが、信徒一同祈りと力を合わせる事を再確認。最後は、池田亨司祭の祈りに「アーメン」。

▽旭川聖マルコ教会

二月もコロナ感染症対策で始まりました。聖歌は献金の時一曲のみ、歌詞を黙読して

その意味を味わっています。

広谷先生は悪化した外反母趾の治療のため初旬に入院され、無事に手術・リハビリを終えて、下旬に退院されました。その間み言葉の礼拝でしたが、先生が書かれた説教の原稿を係が読み、一四日の主日は植松主教様をご巡回されて、待ちに待ったイサク小林章一さんの堅信式が行われました。また一年ぶりの主教ご夫妻との顔合わせに皆の笑顔がはじけました。婦人会は保育園のおやつや販売食品作りを力を出し、保育園は卒園を控え準備の声で満ち溢れています。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

二月七日、聖餐式後の教会委員会での人事異動の報告が松井司祭より。この四月、松井新世司祭は苦小牧聖ルカ教会牧師及び聖ルカ幼稚園のチャプレンに。同教会の吉野暁生司祭が釧路に赴任されるとのこと。松井司祭の一〇年ぶりの異動に暫し沈黙が。

人事異動に伴う引っ越し・引き継ぎスケジュール、厚岸

聖オーガスチン教会礼拝、などのさまざまな課題が話し合われました。

一四日、聖餐式後、オリーブ会総会。さまざまな意見交換が。結論として現在のままの活動を続けることに。

二一日、久し振りの主教巡回。二四名参加。車椅子の津田正子姉を二階の礼拝堂まで皆で運び、灰の十字架と共同懺悔。礼拝後の講話で釧路の思い出話を頂きました。松井司祭にあつては、釧路での最後の主教巡回。実に感動的でした。コロナ禍下、主教巡回に感謝の限りです。

▽新冠聖フランシス教会

内海司祭は二月二日(被献日)に鼠径部ヘルニアの手術を受け、五日に無事退院しました。みなさまのご加禱を感謝いたしております。

昨年(の)被献日は敬愛するボアズ奥田康嘉兄が逝去された日でした。しかし、今年の「記念の祈り」はコロナ禍もあって、この日には叶いませんでした。ところが、一四日(大斎節前主日)には、貞子さんと光信さんご一家がそろって

礼拝に出席なさり、一周年の祈りを献げることが出来ました。神さまのお計らいを心から感謝いたします。

▽小樽聖公会

二月も大雪と好天の繰り返しでしたが、あと少しで春かと思ふと心も軽くなってきました。

七日(日)は礼拝後、短い休憩と換気の後には堅信受領者総会が開かれ、諸報告、議案が承認・可決されました。

一七日、大斎始日は前日から「数年に一度」という猛吹雪で大荒れ。二二日(日)の大斎節第一主日の礼拝のなかで「大斎始日の礼拝」を行い、各々祈りと克己に励む気持ちを更新いたしました。長年の教会の仲間が冬道で転倒して足を痛め入院し、一同心配しつつ快復を祈っています。

▽帯広聖公会

二月の穏やかな日に、十勝の畑ではゆっくりと羽を休める丹頂鶴の姿が見られます。

一四日、堅信受領者総会一九名出席。全ての議案が承認され、コロナ禍でしたが黒

字決算で終わる事が出来ました。神様のみ守りに、心から感謝します。懸案事項だった教会委員の定数も信徒減少で、見直しが迫られています。

そんな中、今年も園庭には立派なリンクが出来ました。子どもたちの懸命に滑る姿に元気をもらって、阿部先生を中心にチームオペリベリ、コロナに負けないで頑張ります。

▽苦小牧聖ルカ教会

季節はずれの雨が降ったり、吹雪いたり晴れたり、忙しいお天気の二月でした。

七日の教会委員会では大斎節集会やイースター礼拝について等を話し合いました。一七日、大斎始日「灰の水曜日」の礼拝を行いました。二一日、聖書輪読会と聖ルカみその仕込みを行いました。コロナの影響で販路が狭くなったため量を減らしましたが、みそを樽に打ち付ける音が小気味よく響いていました。

幼稚園では五日に一日入園がありました。二六日は子ども聖歌隊スマイルのファイナルコンサートを無観客で行い

ましたが、内容は後日、保護者にもみYouTubeで動画配信しています。

▽稚内聖公会

前号で「屋根の雪下ろしも必要なさそう」と書いたばかりの二月初旬、何と例年の八倍にもなる大雪！教会の屋根も危険な積雪に。隣家に危害を与えては大変！と急遽雪下ろしと下ろした雪のかたづけを依頼した。教会会計の残金は？？？例年全国犬糧大会で賑わう季節だが、今年はコロナ禍のため中止。代りに？というわけではないが、新設のみどりスポーツパークにて、全国カーリング大会が開催され、連日関係者と報道陣で賑わった。

△日脚伸ぶ沖にギリシアの貨物船 わぶんV

▽札幌聖ミカエル教会

今年、被献日は各教会で守ることになり、前の日曜日の礼拝で祈りを捧げました。一七日、大斎節に入る。灰の水曜日の礼拝をいつも通り守り、感染予防にと灰をアルコールに混ぜて塗布しました。コロナ禍の大斎節に特別

な思いを寄せ、大切に過ごしたいと思います。幼稚園の新築に伴い、牧師館が取り壊されることになりましたが、幸いすぐ近くのマンションに空きがあり、仮牧師館とすることができました。窓からは園庭で遊ぶ子どもたちの姿も見えて好環境。主日礼拝では、イースターから新しい聖書協会共同訳聖書を用います。同時に聖書日課は毎週印刷するにしました。新しい聖書を味わうのも楽しみです。

▽札幌キリスト教会

二月二日の被献日礼拝、今年には分区分の集いではなく各教会で捧げられました。二三日、今年の「詩人ユン・ドンジュを語る会」は、大阪教区でお働きのユ・シギョン司祭の講演をリモートで聴きました。同日、教会の屋外掲示板が、デジタルサイネージ(電子掲示板)に一新、佐々木恵人さんの逝去一周年を記念して捧げられました。一四日、堅信受領者総会はコロナ対策に協力いただき一時間の議事で無事終了。大斎節は、植松主教様の司式・説教による始日礼

拝で始まりました。

▽新札幌聖ニコラス教会

七日、礼拝後に堅信受領者総会開催。コロナ禍での礼拝堂の換気対策や水道凍結による地下浸水の後片付けなど話し合われました。

日ごと春の気配が?!近づくこの頃でしたが、新井田兄がツルツル路面で転倒!!右手首骨折?みなさまもどうぞお気をつけください。

毎週礼拝後は教会玄関ホールでミニバザーを開催しています。お立ち寄りの際は是非ご覧ください。今月から菊池姉が奏楽奉仕者に加わりました。感謝。

▽平取聖公会

この一年のコロナ禍のなかで昨年三月の四週間は信徒の集まる礼拝は休みましたが、平取町内でのコロナ発生がなかったため、この年はイースター礼拝も捧げることができました。マスクを付けてはいませんが聖歌も短縮式文の中で三曲歌うことができています。牧師の説教を毎週聴くことのできる有難さを改めて知る機会が与えられたと思いま

す。

コロナ対策の良い衛生環境のおかげでインフルエンザの発生がゼロという現実は新たな発見でしょうか。一月末に町長夫妻が札幌在住の公用車派遣運転手からの感染があった外は町内でコロナは発生していないことは幸いです。

▽紋別聖マリヤ教会

二月に入り、寒さも一段と厳しく、オホーツクの風物詩「流水」も綺麗に海岸を埋め尽くしております。今年は、新型流水砕氷観光船「ガリンコ号Ⅲイメル」が就航し、コロナ禍でありながらも大分県佐伯市の造船所で建造され、太平洋を北上し紋別に入港するまで、両地元・全国的にもちょっとした話題になりました。

本来であれば、最も賑わう季節なのですが、もうしばらくの辛抱です。大斎節に入りました。主の平安が私達とともにありますように。

▽聖マーガレット教会

二月七日(日)顕現後第五主日、信徒奉事者・木村淳さん司式で、み言葉の礼拝。い

つも、ヘンリー・ナウエン神父の書籍を説教として朗読。慰めと励ましの言葉にみちている。

二一日(日)、大斎節第一主日。聖餐式において「灰の十字架のしるし」を行う。己が死を憶えること、常に神に立ちかえること。そして、十字架のしるしは、それ以上に、神の恵みによつて、わたしたちがスペシヤルな存在として神に受け入れられていることのしるしである。イエスさまからのお墨付きであるゆえに。

▽有珠聖公会

二月二十八日(日)聖餐式。礼拝後、堅信受領者総会が行われました。礼拝で用いられているバチラー師ゆかりのリードオルガンの修復を今年度の課題とする事を決議しました。また、コロナの状況を見極めながらですが、積極的に年間行事を実行する事を確認しました。

教会に隣接の向井さんの畑が、バチラー果樹園として生まれ変わる事になりました。果樹の記念植栽などを進め、

時間をかけて実り豊かなガーデンとなり地域の憩いの場となる事を夢見ています。

▽留萌キリスト教会

二月中旬に留萌管内で新型コロナウイルスのクラスターが発生し緊張が走りましたが、感染拡大は小規模に収まったようで一安心。

一七日、大斎始日の礼拝を行い、額に灰で十字の印を受けました。

農閑期限定で教会に来る貴重な時間を用いて、小林さんは金岩さんと協力して祭壇の壁磨きに励んで下さいました。礼拝後の短時間の作業を三週に分けて作業した結果、見違えるほどの白さを取り戻した祭壇の壁は、とても明るく輝いています。ご奉仕感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

雪がとても少ない北見です。気温は零下一六度にはなつたのですが、本来もう少し冷え込む地域だと思えますので、冷え込みもさほど厳しくはない冬だと言えそうです。

司祭はポリープ切除のため二月三日入院。四日下から

の内視鏡により切除。九日に退院いたしました。

二一日、皆様揃われたの聖餐式。灰の十字のしるしをいただく祈り。礼拝後は教会委員会を行い、総会日程その他を決めました。当教会は本堂に「神さまのもとに睦み合う教会」です。主に感謝。

二月一四日大斎節前主日、吉野司祭来教。聖餐式後堅信受領者総会、昨年の教務報告、今年度の礼拝行事予定、会計報告、教会共同墓地墓碑に関する規定ができる。信徒より礼拝堂を一階に移してほしいとの要望がある。

▽室蘭聖マタイ教会

二一日、信徒四人で一階の整理整頓を行う。山本兄、田中兄、お疲れ様でした。先月より入院中の藤井扶美子姉が主の許に召されました。教会で通夜の祈りと葬送式が御家族信徒に見守られ行われる。魂の不安をお祈り致します。

二一日、信徒四人で一階の整理整頓を行う。山本兄、田中兄、お疲れ様でした。先月より入院中の藤井扶美子姉が主の許に召されました。教会で通夜の祈りと葬送式が御家族信徒に見守られ行われる。魂の不安をお祈り致します。

いつもにこやかに優しい声で語りかけて下さる扶美子姉の声を聞くことがかなわずとも淋しくなりました。

二八日、吉野司祭来教。聖餐式後新約聖書の輪読会を行う。

▽今金インマヌエル教会

二月一四日と二八日に礼拝を守りました。今年例年よりも雪が多く、広い境内まわり、駐車場そしてまき小屋までの通路を毎回皆で手分けしての除雪。とは言ってもほぼ機械です。訳ですから、それぞれの家にあるトラクターで当番制のように行われます。その時の降り方、雪質によって、土までほじくり出さないように、木を倒さないように、建物に気を付けて、などと慎重に作業を進めてゆきます。その作業ももう数回…。それがなくなる頃種の祝福があり、また今年もトラクターのエンジン音があちらこちらから聞こえてくる春耕期です。

二月七日、信徒総会と婦人会総会、教会から出席者に菓子下賜。一〇日、保育園の職員会議。園児と職員は鬼病から守られており感謝です。一四日、一同で教会報発送作

▽深川聖三一教会

二月七日、信徒総会と婦人会総会、教会から出席者に菓子下賜。一〇日、保育園の職員会議。園児と職員は鬼病から守られており感謝です。一四日、一同で教会報発送作

業。主教練巡回日について答申す。巡回をお待ちいたします。一八日、園長、チャプレン協議会、園長宅で電子画面で交信会議。二六日午後六時から保育園職員会議、明年度の保育計画が話し合われる。チャプレンと園長はキリスト教保育の目的と使命について職員に理解と協力を求める発言をする。主イエスは子供を愛し守ります。

▽函館聖ヨハネ教会

二月七日(日)新規役員による初の教会委員会開催。コロナ禍で礼拝に來られない信徒への対応について話し合う。

二月七日(水)大斎主日(灰の水曜日)、信徒八名が灰の十字架を額にしるし聖餐に与る。

二月七日(日)新規役員による初の教会委員会開催。コロナ禍で礼拝に來られない信徒への対応について話し合う。

二月七日(水)大斎主日(灰の水曜日)、信徒八名が灰の十字架を額にしるし聖餐に与る。

二月七日(日)主教練(巡錫)お説教に続き、藤井先生ご夫妻に司祭按手五〇年(金祝)の祝福と感謝の祈りが捧げら

れた。感動のサプライズに、聖堂いっぱい拍手が鳴り響いた。

▽網走聖ペテロ教会

二月の網走は、流水が行ったり来たり。月初め飯野司祭は、北見日赤病院での内視鏡によるポリープ切除手術の入院治療を、無事終えられる。七日はみことばの礼拝後、婦人会改め初ザカリア会。難解だね、哲学書だねと話しながら「信頼のしるし」を輪読。

一四日の総会ではシチューの昼食を挟み、新年の抱負・協働を語り合う。一六日に台所の水抜栓故障するが、原因は脱ネジで無事修理。二一日、みことばの礼拝。司式予定者都合変更、礼拝出席者皆で役割分担。「証」も代読され、礼拝が守られる。

